

子どもの発達に寄りそった見まもり

プラムネット株式会社
体験活動リーダーズアカデミー講師
水村 賢治

■あなたには障がいがありますか？

「みなさんの中に障がいをお持ちの方はいらっしゃいますか？」私が発達障がいについてお話するときに、冒頭で必ず問いかける質問です。あなたは自信をもって答えられますか？なんとなくモヤモヤする方もいらっしゃるのではないのでしょうか。いまの日本ではメディアに取り上げられたりして認知度は上がりましたが、残念ながら「発達障がい」という言葉が独り歩きしたようで誤解や偏見も見受けられます。発達や障がいについて正しく理解することで、困っている人を的確にサポートしていくことが大切です。



■発達障がいってどんなこと？

一般的に発達障がいというと、自閉症スペクトラム障がい（ASD）、注意欠如・多動性障がい（ADHD）、学習障がい（LD）、広汎性発達障がいなどが挙げられます。これらは脳や中枢神経の機能不全が原因となった認知発達の凸凹に由来します。人間の活動（身体を動かしたり、言葉を発したり…）は神経を通る電気的な信号によってコントロールされています。この信号が強すぎたり弱すぎたり、調節しづらいことによって、認知、行動、言語に影響が現れます。抽象的なことが理解しづらい、落ち着きが無い、言葉が出づらい…といった具合です。

これらの行動は特に、学校や会社といった「社会生活」の中で他人の気持ちやルールなどにぶつかり、大きな問題になることが多いです。本人も周りも困ってしまいます。そんなときに、問題の原因としての「障がい」について考え、困難を和らげる具体的なサポートが必要となってきます。

■苦手なところを補い、得意なところをほめてあげましょう

一般的に、自閉症スペクトラム障がい（ASD）的な脳は細部に注目し、具体的な記憶が得意な一方で、抽象的な思考や言語表現が苦手です。また、注意欠如・多動性障がい（ADHD）のお子さんはじっとしていたり、長時間集中したりすることが苦手ですが、いつも元気がよくクラスのムードメーカーだったりします。大切なことは、保護者や周りの人がその子をよく観察し、特徴に応じて困っていることを的確にサポートすることです。また、彼らは普段から注意されたり、怒られたりすることが多いです。よくある誤解ですが、彼らは周りを困らせようとか悪気があって問題行動をとっているわけではありません。よくできたところや得意なところはたくさんほめて伸ばしてあげましょう。

近年の情報化社会では、インターネットで「うちの子 発達障がい」と検索すると、たくさんの情報や記事、体験談が出てきます。もちろん有益な情報もありますが、中には、無責任な情報発信も存在しますので、心配な場合は専門家や専門施設（支援センターや市区町村の子育て窓口など）に問い合わせるのが良いでしょう。英語圏では障がい児を「Gifted（ギフテッド）」と呼ぶことがあります。「天（神様）から特別な贈り物（ギフト：能力）を与えられた子」という意味です。すべての人は異なる個性を持っています。目の前のお子さんと同じ向き合っ、輝いているところを探してみたいはいかがでしょうか？

